

帝京短期大学

井口 文子*

I. 大学の沿革と概要

帝京短期大学は1962年に開学しました。キャンパスのある幡ヶ谷は、1931年5月帝京大学グループの創始者である沖永荘兵衛 初代理事長が帝京商業学校(現:帝京大学高等学校)を創立した地で「帝京大学グループ発祥の地」と言える所です。創立当初は食物科1学科のみでしたが、現在では生活科学科、こども教育学科、ライフケア学科、専攻科臨床工学専攻、専攻科こども教育学専攻、専攻科養護教諭専攻、こども教育学科通信教育課程と、時代に即した多様な資格(栄養士・養護教諭(一種/二種)・幼稚園教諭(二種)・保育士・臨床検査技師・臨床工学技士・柔道整復師など)を目指す短期大学として発展してきました。

臨床検査技師の養成を目指すライフケア学科臨床検査専攻は、前身の帝京医学技術専門学校臨床検査学科から2008年に新たなスタートを切りま

した。専攻科の臨床工学専攻に進学することでダブルライセンスを目指すことも可能です。

ライフケア学科は他に柔道整復専攻も有しており、入学定員は臨床検査専攻80名、柔道整復専攻昼間60名、夜間30名、臨床工学専攻40名で、ライフケア学科の総定員は550名。生活科学科、こども教育学科と各専攻科を合わせると学生数は有に1,000名を超えます。

臨床検査専攻を担当する専任教員は11名(教授2名、講師5名、助教4名)で内訳は、医師1名、薬剤師1名、臨床検査技師7名、工学系1名、理学系1名です。



写真1 校舎



写真2 創始者 沖永荘兵衛像

*帝京短期大学ライフケア学科 iguchi@gaku-oki.ac.jp

II. 本学の教育目標

建学の精神である「礼儀・努力・誠実」は、人として社会生活を送る上で普遍的な価値観であり、いつも礼儀正しく、何事にも努力を怠らず、誰に対しても誠実であることの大切さは創立以来受け継がれています。この基本理念に則り、自分の意思で行動できる主体性と物事を判断する確かな目、社会人としての協調性を持ち、人に優しい配慮の出来る豊かな人間性を併せ持つ信頼される人材の育成を目指しています。

III. 臨床検査専攻の特徴と教育内容

臨床検査技師を目指す臨床検査専攻は短期大学として再スタートしてからの歴史は浅いですが、前身の帝京医学専門学校に臨床検査学科が開設されてから40年余り、長い歴史と確かな実績を元に信頼される人材の育成を目指しています。

1年次前期で教養科目に加え、それまで学習習慣のなかった学生達にも学習習慣の徹底を指導します。後期からは基礎科目に加え専門基礎科目と学内実習も始まります。学内実習の特徴は、1学年を4グループに分け20名の小グループで学生一人一人に目を配れる体制をとっています。将来、臨床検査技師として就業するためのモチベーションを高めるため、1年次に帝京大学グループの病院見学も実施しています。



写真3 コンピュータ演習室

2年次では、週の半分を学内実習とし、専門科目と並行して実技で体得を目指します。

3年次になると4月から6月末までの3ヵ月間臨地実習を体験し、後期になると国家試験に特化した演習でそれまでに得た知識や実習の整理と強化を行います。

全ての学年で担任制をとり、学習面はもちろん生活面での相談も気軽に出来る態勢をとっています。本学では、大学や短期大学では珍しい保健室が開設されていますので、急な体調不良だけでなく精神的な相談などにも対応しています。

本学は、専攻科に臨床工学専攻を併設していますので4年間でダブルライセンスを狙えることと、2013年度より所定の単位修得・修了後、大学評価・学位授与機構への申請で“学士(保健衛生学)”を取得できる体制も整えました。

IV. 本専攻の抱える課題

臨床検査養成施設の四年制大学化に伴い、他の三年制短期大学・専門学校が抱える問題と同様に本学に於いても優秀な入学生の獲得は重要課題です。当然のことながら優秀な学生は四年制大学を目指します。3年という短い修学期間で、高校まで学習習慣さえなかった多くの学生に学習習慣を定着させ、国家試験受験レベルまで引き上げていくには相当困難な課題も多く、乗り越えなければなりません。

2014年度からAO入試や推薦入試で年内に入学が決定した生徒に入学前課題として、1月と2月の2回、入学前スクーリングを実施しました。大学の講義を、メモを取りながら聴くトレーニングを行い、入学後いきなりの90分授業に戸惑わないような指導も行っています。

まだまだ試行錯誤であり、今後より充実した対策を講じなければならないところです。一人でも多くの卒業生が、「臨床検査技師になって良かった。」と言ってくれるように、職員一同日々努力を続けています。